

ブルーツーリズムの推進

鹿児島地域振興局 林務水産課

【背景・目的】

鹿児島市は規模の大きい都市にもかかわらず、その地先である鹿児島湾では多種多様な漁業が行われている。しかし、その実態があまり市民に知られていないため、市民に漁業を身近に体験してもらい、水産物の販路拡大及び地産地消を図る。

【普及の内容・特徴】

鹿児島市が主催した「食の産地交流会」ツアーにおいて、喜入町漁業協同組合に助言を行った。

市より、喜入町漁協へ青のり（現地名。漁業権は「ヒトエグサ」）の収穫を体験ツアーに組み込めないかの相談があり、場所と時期について以下のとおり選定

- ・場所：喜入町漁協の青のり養殖場所の中で、
- ・大型バスが近くに止められる場所
- ・ツアー客の安全を考え、青のり養殖網下の底質は、転んだとき危険がある礫でなく、泥質の場所という観点から、生見地区を選んだ。
- ・時期：青のりが摘採可能な時期に加えて、ツアー客が長靴で摘採するので、地面が干上がる大潮干潮時という条件から、平成26年2月大潮日の12：30～を現地での体験時刻となるよう、調整した。

【成果・活用】

- ・これを受けて、市は広報誌に、「食の産地交流会・喜入地域で青のりの収穫体験」として、募集人員40名（市内に住むか通勤通学する18歳以上の人）を募集（参加料あり）
- ・平日にもかかわらず、定員を超える応募があった。
- ・当日は晴天に恵まれ、午前中市役所前をバスにて出発、グリーンファーム（鹿児島市体験農園施設）にて収穫体験・青のりを用いた昼食（さつまいもと青のりを混ぜたかき揚げ、地元名ガネなど…地元農産加工グループが協力）をとった後、バスで移動中は漁業者から「喜入の青のり」の説明を行い、現地では青のりの摘み取り体験を行った。
- ・ツアー後、ツアー客から回収したアンケートでは、「地元でこんな漁業があるとは知らなかった」、「楽しかった、ためになった」など、地元の漁業に初めて触れて関心を持ったことがわかった。
- ・自主的に行うことにする場合、その事務量から、民間旅行者などの受け皿が必要と思われる。
- ・民間旅行者によるお買い物ツアー企画の中で青のりを購入する、などの企画も生まれている。

○摘採体験前に漁業者からの説明



○青のり（ヒトエグサ）摘採体験

